

# 風疹に関する疫学情報：2026年4月22日現在

国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 予防接種研究部

## 2026年第16週の風疹報告数

2026年第16週（4月13日～4月19日）の風疹報告数は0人であった（図1, 2-1, 2-2）。なお、第16週に診断されていても、2026年4月23日以降に遅れて届出のあった報告は含まれないため、直近の報告数の解釈には注意が必要である。

## 先天性風疹症候群の報告数

2008年の全数届出開始以降の風疹ならびに先天性風疹症候群（congenital rubella syndrome: CRS）の報告数を示す（<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella/8588-rubella-crs.html>）。2018～2019年の流行で、2019～2021年に6人がCRSと診断され報告された（図3）。2021年第3週以降報告はない（図3）。

## 2013年以降の風疹報告数

2013年（14,344人）の流行以降、2014年319人、2015年163人、2016年126人、2017年91人と減少傾向であったが（図2-1, 2-2, 3）、2018年は2,941人、2019年は2,298人が報告された。2020年以降は再び報告数が減少し、2020年は101人、2021年12人、2022年15人、2023年12人、2024年9人、2025年11人（暫定値）であった。前回の風疹に関する疫学情報（2026年第2週）以降の報告は第2週の遅れ報告の1人である。2026年第16週時点での累積報告数は1人（暫定値）である（図1, 2-1, 2-2, 3）。

図1 週別風疹報告数(2026年第1～16週) (n=1)

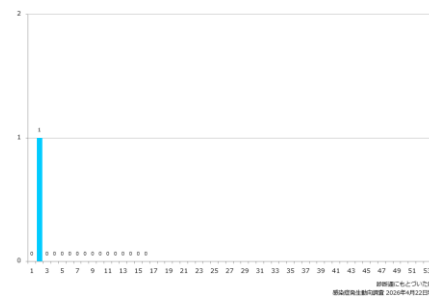


図2-1 風疹累積報告数の推移 2018～2026年第16週

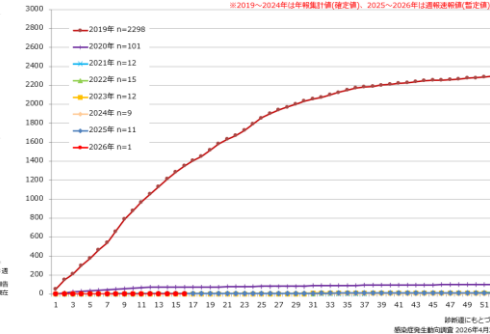


図2-2 風疹累積報告数の推移 2019～2026年第16週

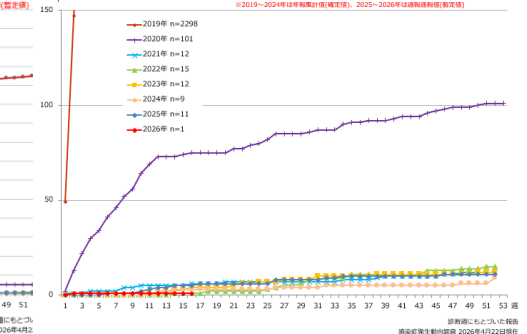
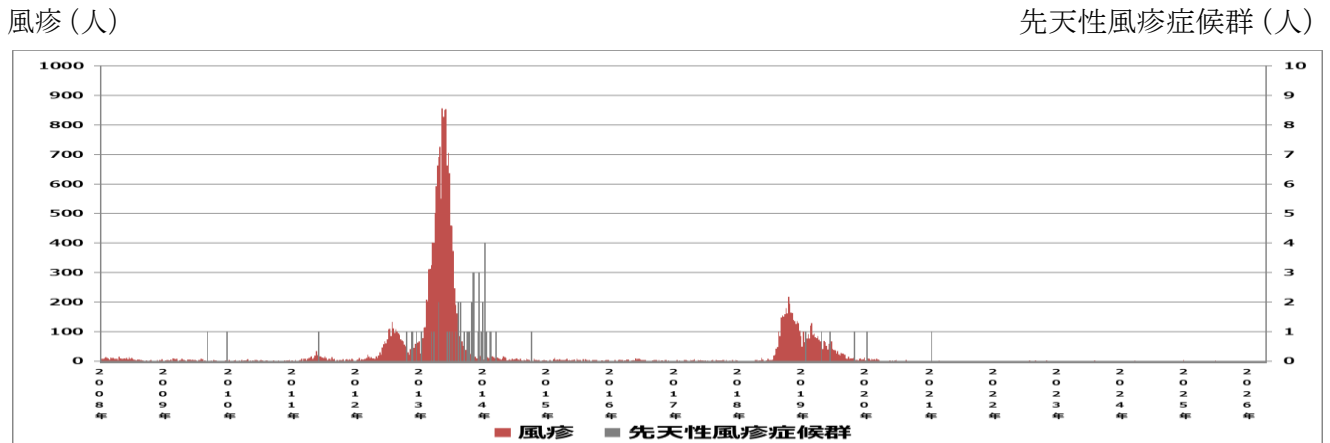


図3 週別風疹・先天性風疹症候群報告数（2008年第1週～2026年第16週）



## 地域別報告数

第16週は、風疹の報告は無かった(図5)。2026年は第16週時点で全国として1件、東京都からの報告があった(図4, 7)。人口100万人あたりの患者報告数は全国で0.01人、東京都として0.07人であった(図6)。

図4 都道府県別病型別風疹累積報告数(2026年第1~16週)(n=1)

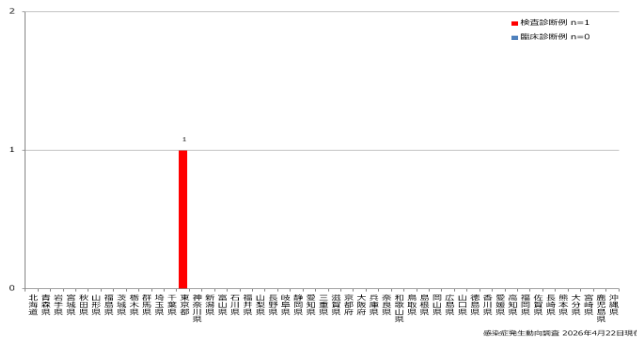


図5 都道府県別病型別風疹報告数(2026年第16週)(n=0)

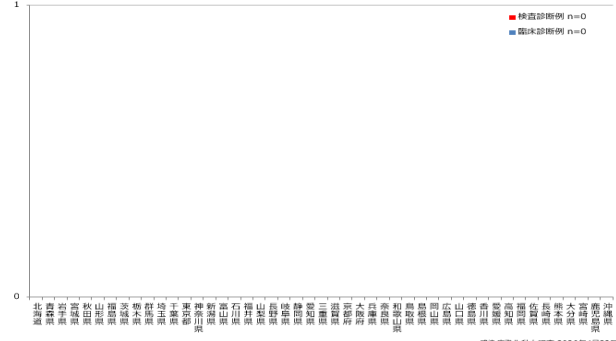


図6 都道府県別人口百万人あたり風疹報告数(2026年第1~16週)(n=1)

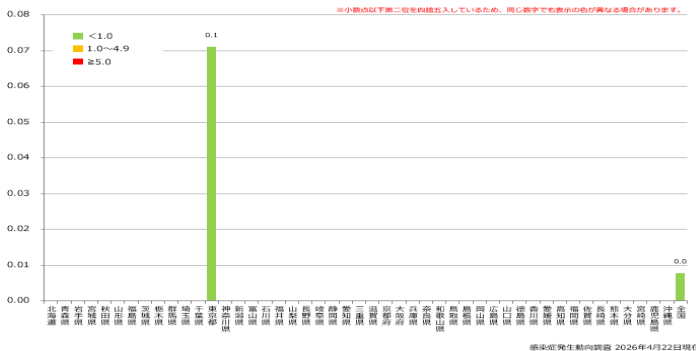
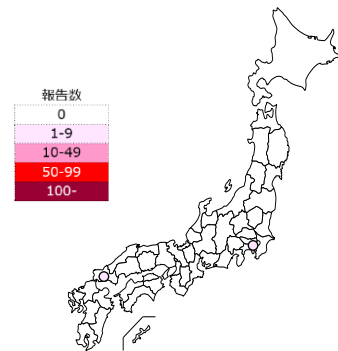


図7 都道府県別風疹報告数(2026年第1~16週)(n=1)



## 症状

発熱、発疹の症状が報告された。

## 検査診断の方法

検査診断例としての報告で、診断方法は血清 IgM 抗体の検出であった。風疹の届け出については、迅速な行政対応を行うため、臨床診断をした時点でまず臨床診断例として届出を行うとともに、血清 IgM 抗体検査等の血清抗体価の測定の実施と、都道府県等が設置する地方衛生研究所でのウイルス遺伝子検査等の実施のための検体の提出をしていく必要がある。血清 IgM 抗体検査は発疹出現から4日目以降に実施する必要があるが、PCR 検査は発疹出現後7日以内に検査する必要がある、注意が必要である。

## 推定感染原因

推定感染原因は不明として報告された。

## 年齢・性別

報告患者は1歳女性であり、2026年は第16週までに男性の報告はなかった（図8, 9, 10）。

図8 年齢群別接種歴別風疹累積報告数(男性) (2026年第1~16週) (n=0)

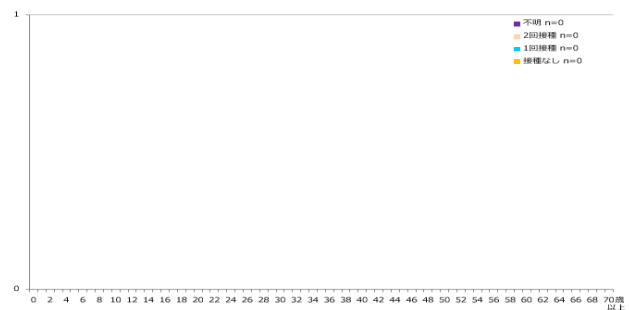


図9 年齢群別接種歴別風疹累積報告数(女性) (2026年第1~16週) (n=1)

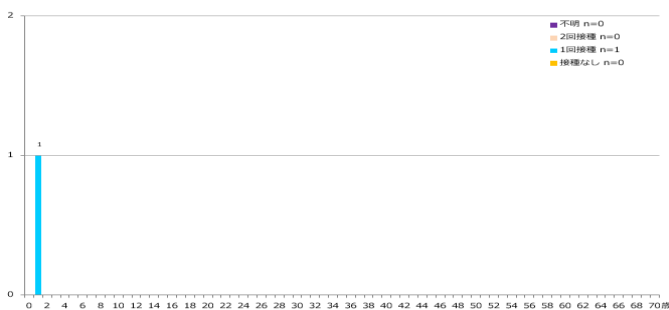
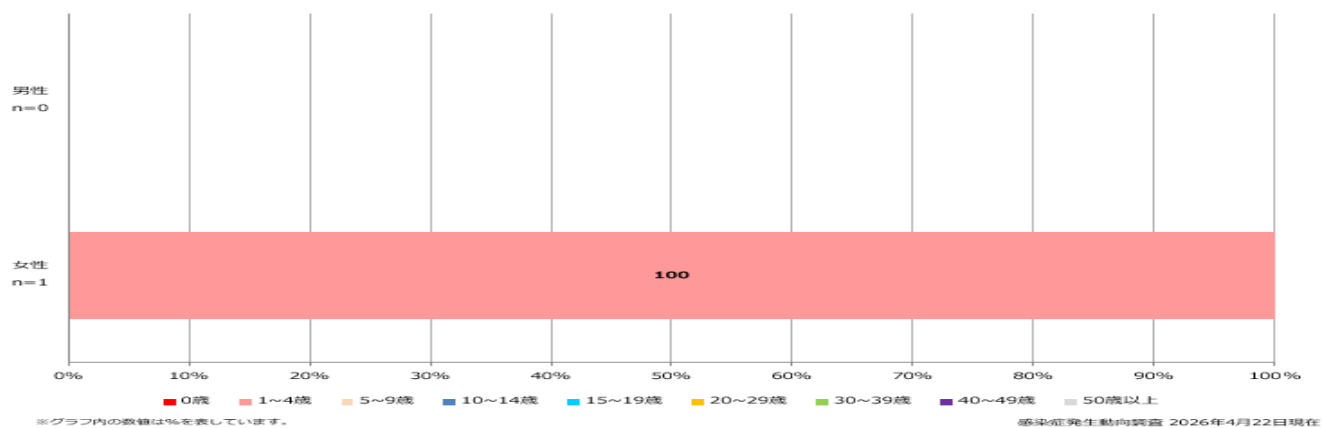


図10 年齢群別風疹累積報告数割合（男女別）（2026年第1~16週）(n=1)



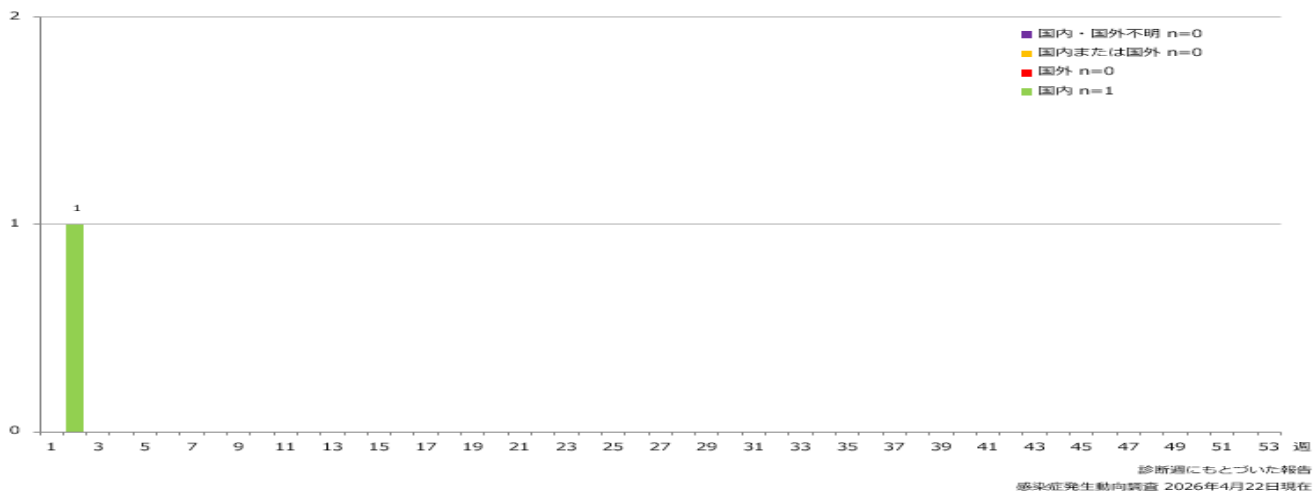
## 予防接種歴

接種歴は1回接種歴ありとして報告された。

## 推定感染地域

推定感染地域は、国内として報告された（図11）。

図11 週別推定感染地域（国内・外）別風疹報告数（2026年第1~16週）(n=1)



## 風疹 HI 抗体保有状況

予防接種法に基づいて毎年調査が行われている感染症流行予測調査によって国民の抗体保有状況が調査されている。2024 年度の調査数は約 4,800 人で例年より少ないものの、2020 年度に約 3,000 人まで減少した時期と比較すると多くの方にご協力いただいた。成人男性の抗体保有率（HI 抗体価 1:8 以上）は 40 代後半で 88%、50 代前半で 90%、50 代後半で 88%、60 代前半で 88%であった（図 12-1）。昨年度まで、風しんの追加的対策が行われ、対象世代の男性の抗体保有率は 89.0%（2024 年度時点 2025 年 2 月集計の暫定値）まで引き上げられたものの、2019~2020 年の風疹患者報告の中心はこの年齢層の成人男性であることから、引き続きこの集団に対する注意が必要である。一方、妊娠出産年齢の女性の抗体保有率は概ね 95%以上で高く維持されていた（図 12-2）。妊婦健診で低いと指摘される抗体価（HI 抗体価 < 1:8, 1:8, 1:16）の割合は 20 代前半で 33%、20 代後半で 27%、30 代前半で 32%、30 代後半で 22%、40 代前半で 18%、40 代後半で 22%存在することから（図 12-2）、特に妊娠 20 週頃までの妊婦の風疹ウイルス感染には注意が必要である。

図12-1 男性年齢/年齢群別風疹 HI 抗体保有状況

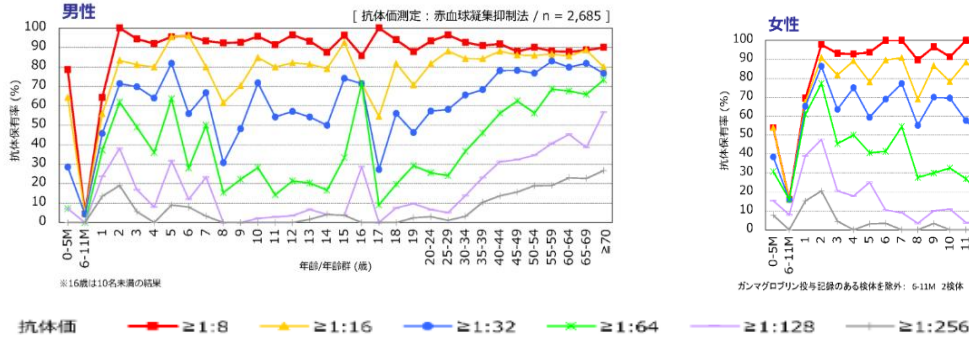
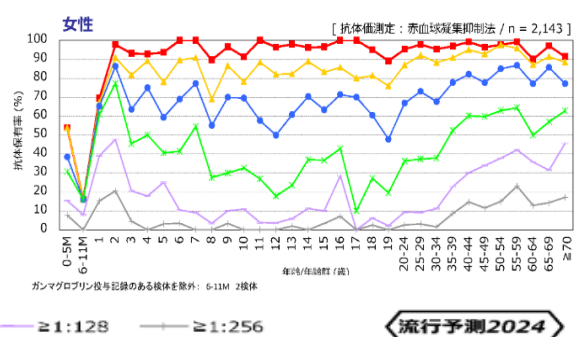


図12-2 女性年齢/年齢群別風疹 HI 抗体保有状況



流行予測2024

### 【2024年度風疹感受性調査実施都道府県】

北海道、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、石川県、長野県、愛知県、三重県、山口県、高知県、福岡県